

## The Collected Work of LYDIA SICHER 13 Goal

p120~121

## Private Logic of Oughts 「べき」の私的論理

Some persons see themselves as the center of the universe. This self-evaluation of being special carries with it the implied “ought;” the ideal that they ought to have made achieved in order to be valuable, important, and ought to have made impression on the world. These are oughts that people have set for themselves that are completely devoid of reasonableness. Unfortunately, these are not the oughts that life sets for all: to be cooperative and to develop a feeling of community.

ある人々は、自分を全世界の中心だと考えている。この、特別であるという自己評価には、「べき」の含意がある。すなわち、自分は価値が高く重要であるべきで、そして世界に影響をあたえるべきという理想、を携えている。これらは人々が自分自身に課した、合理性をまったく欠いた「べき」である。残念ながらこれらは、人生がすべての人に課している「べき」、つまり、協力的であることや共同体感覚を育てること、ではないのである。

ought : 古英語 ahte (owe (～を負う、持っている)) の過去形に相当する語  
道徳・社会通念・健康上の理由などに基づく義務・忠告・助言；must よりも意味が弱く、should より強い。

Deep L では「べき論」と出てきました。

feeling of community : いろんな訳し方ができると思いますが、意味としては共同体感覚にあたると思えたので、「共同体感覚」と訳しました。

People learn to think in terms of their own private logic and will say, “I’m different from others.” *Everyone* is different because no two people in the world are alike. But the difference that they mean is a difference that begs justification. “I am different from the others and, *therefore*, you cannot expect me to do insignificant jobs.” Or, “I cannot finish what I have started because if I finish you might discover that what I did was not marvelous.”

人は自分自身の私的論理からものを考えることを学んで、「私は他の人とは違うのだ。」と言うようになる。世界には同じ人間は2人といないのだから、みんな違うのだ。しかし彼らの意味する違いとは、正当性を求める違い、なのである。「私はひととは違うの。それだから、私につまらない仕事をさせようなんて期待してはいけないの。」あるいは、「私ははじめたことを最後までやれない。だってもし最後までやったら、あなたたちは私のしたことはたいしたことないってわかってしまうでしょうから。」

A difference that begs justification : 正当性を求める (請う) 違い . . . あることを理由に課題

から逃れる、その理由に使われる「違い」？ ある意味「劣等コンプレックス」？

参考：資料 1)

Thus, people create their own formulas with their private intelligence or logic according to which they live. They expect themselves to be far beyond their present point of development. They expect others to see them as having already arrived at the endpoint of their own capabilities. They then go through life begging for excuses because they have not reached this endpoint of evolution, of perfection.

こうして、人々は私的知性や私的論理による独自の公式を作りだし、それに従って生きるのである。彼らは自分が現在の発展段階をはるかに超えていることを期待する。他人から、自分の能力の終点にすでに到達しているように見えることを期待する。彼らはそして、自分は発展の終着点、完璧な状態まで至ってなどいないので、言いのがれをして人生をやり通すことになるのである。

- private intelligence or logic = private intelligence or private logic と思われます。
- private intelligence について 資料 2)
- “end point”という言葉が Sicher はよく使われているように思います。究極的な目標を意味する言葉として、だと考えられます。資料 3)